



けや中だより

第5号

令和5年7月20日(木)

三田市立けやき台中学校



「熱い」39日間に～自分の良心と約束する～

いよいよ39日間の「熱い」夏休みが始まります。夏だからと言って「暑い」ではない。それは皆さんが目標を持って、「熱い」心で目標に向かい成長して欲しいと願うからです。

今年の夏休みは39日あります。学校で過ごす日数が年間200日ですから、その五分之一にあたります。ずいぶんとたくさんの時間があるので、目標をもってやり続けることができれば、成長できることはまちがいありません。ではどうすればいいのか？

カギは「T」です。「T」はもちろん「time」、時間の使い方が鍵になる。では、どうするのか？「決まった時間に、決まった行動をする」のです。つまり、習慣にしまうこと。

一流のスポーツ選手は、毎日決まった時間に決まったことをします。スケートの羽生弓弦選手は、毎日体重計に乗るのが習慣です。イチロー選手は高校時代に、毎日10分間の素振りを3年間続けました。洗顔や歯磨きを苦痛だと思わないように、同じ行動を同じ時間に戻していけば、習慣になり、自分の生活を変えることができます。習慣でいえば、夏休みも「学校の時間通りに生活する」というのもおススメの時間の使い方。そうすると、6時間の学習ができます。

このように習慣にするのは、「次に何をしようか？」という迷いがなくなる”“その結果、時間を有効活用できる”というメリットがあるのです。

CHANGEの「C」に「T」をつけると、CHANGE “変化”になります。時間の使い方、目の前のチャンスを自分の変化・成長につなげることができる。

決めたことは、心を乱さず続けること。朝起きる時間、朝食をとる時間、部活に出かける時間、学習すると決めた時間…そういうけじめをつける＝自分の良心と約束するのです。

39日間の「熱い」夏休みを経て、一回り大きくなった、たくましくなった皆さんに出会えることを楽しみにしています。

夏休み、平和について考える



夏休みにぜひ、平和について考えてほしいと願い、書きます。

「8月6日」「8月9日」「8月15日」これらが何の日かわかりますね。時期はちょうど夏休み、ニュースなどで報道されるので、ぜひ、平和について考える機会にしてほしいのです。

そしてもう1つ覚えておいてほしい日が「6月23日」、沖縄「慰霊の日」です。

78年前、太平洋戦争末期の1945年3月末、沖縄に米軍が上陸し地上戦が始まりました（日本では唯一の地上戦。その他の都市では、米軍が上陸しての地上戦はありませんでした）。約3か月にわたって激しい戦闘が行われ、沖縄戦では日米合わせて20万人以上の方が亡くなりました。沖縄に住む人々も戦闘や看護に動員されて戦闘に巻き込まれ、県民の4人に一人が犠牲になったのです。

この戦闘は、沖縄本島南部に撤退した日本軍の牛島司令官が6月23日に自決し、軍による組織的な戦闘が終わったとされています。沖縄県ではこの日を「慰霊の日」と定めて、毎年、追悼式を行っています。追悼式では、県内の小中高生から選ばれる「平和の詩」が朗読されます。今年も、高校3年生の平安名^{へいあんな}さんの「今、平和は問いかける」が読み上げられ、新聞などにも載っていました。読んだ人もいるかもしれません。

たくさんの「平和の詩」の中で、中学生が書いた詩がとても印象深く、皆さんが平和について考えるきっかけとなると感じたので紹介します。

いくさ世を知ること

沖縄県立開邦中学校 1年 安仁屋 学都



↑ デイゴの花

8月の予定

- 5日：三田まつり
- 13日～15日：学校閉庁日
- 19日：すずかけ台まつり
- 21日、22日：学習会（13:30～）
- 29日：始業式
- 30日：課題実力テスト
- 31日：課題実力テスト 体育大会結団式

学校閉庁日等について

教職員の健康増進や休暇取得の促進を図るため、夏季休業中の8/13(日)～15(火)は、三田市立学校は休校となります。また、平日の勤務時間（8時15分～16時45分）以外は、電話は自動音声応答となります。ご理解とご協力をお願いします。

<9月の主な予定>

- 1日：給食開始 専門委員会
- 4日：生徒集会 体育大会練習開始
- 12日：体育大会
- 21日、22日：中間テスト
- 30日：三田市新人大会

いくさ世を知ること

沖縄戦は住民を巻き込んだ地上戦
この小さな島で

二十万人以上の命が失われた
生きるはずの未来があったんだ
叶えなかった夢があったんだ
仕方なかったとか
他に方法がなかったとか
そんな理由じゃ済まされない
誰のために死んだのか
何のために捧げた命なのか
みんな分かっている
納得できる理由なんてあるわけないって
僕は 慰霊の日を迎えるたびに
大切なことを学んでいる
沖縄戦を知ること
未来を守ることにつながるんだって

いくさ世を忘れないこと

ひいばあちゃんが教えてくれた
七十八年前 十四歳のひいばあちゃん
学校では竹やりを持たされて
戦い方をならった
意味がないことだと思ってた
弁が岳で日本軍の壕を掘らされた
素手で堀り ザルで運び出す
体中が泥まみれになってすごく嫌だった
いくさが始まるともう逃げるしかない
爆撃で死んでしまったお母さん
ごめんねとその場に埋めた
涙は出なかった
自分もすぐ死ぬんだと思った
小さな妹の手を引いて必死に逃げた
誰も助けてくれなかった
人間が怖かった
僕は ばあちゃんがかわいそうで
何て言ったらいいかわからなかった
でも話してくれたことは
忘れてはいけないんだ

いくさ世を伝えること

ひいじいちゃんからは聞けなかった
僕が二歳の時に亡くなってしまったから
だから お父さんが教えてくれた
戦後 ひいじいちゃんが靴屋になったこと
米軍人のブーツを修繕して
生計をたてていたこと

腕が良いと
ゴザで人気の靴屋になったこと
いくさでは怖かったアメリカ人とも
自然と仲良くなったこと
でも
沖縄戦の話はお父さんも聞いていない
だから僕は
靴屋になったひいじいちゃんを想像した
優しくてみんなに愛される 街の靴屋さん
いくさがなければ
人生はかわっていたと心から思った

いくさ世を生き抜いた命に感謝すること

ひいばあちゃんが僕の頭を優しくなでる
僕を抱っこして笑うひいじいちゃん
写真を見せながら
僕が生まれたことを喜んでくれる
だから
悲しくて 思い出したくないだろうけど
いくさ世を生き抜いてくれて
僕のおばあちゃんを生んでくれて
僕のお父さんへ命をつないでくれて
ありがとうって伝えたい

いくさ世を二度と繰り返さないことを誓うこと

戦争を始めるのは人間
ひとりひとり違う人間
でも同じ星で生きている命
奪って 壊して めちゃくちゃにして
後にのこるものは何
得られるものはどんなこと
いくさ世を知るウチナーンチュは
戦争がもたらす
悲しみと虚しさを知っている
戦争は終わっても苦しみは消えないことを
忘れない

命を守りたい
夢を叶えたい
幸せな未来を生きたい
僕たちの思いはこの空の下で混じり合う
僕たちの声はこの空の下で響き合う

僕たちは知っているから
僕たちは忘れていないから
伝えたい 平和の大切さを
感謝したい つながれた命に
二度といくさ世にしないと誓って

【沖縄県平和祈念資料館提供】

「8月6日」「8月9日」「8月15日」「6月23日」、この日に何があったのか、そこで暮らす人々がどんな思いになったのか。直接見たり聞いたりできなくても、ニュースや新聞で情報を得て、想像することができます。大切なのは想像すること。思いを巡らせること、考えること。